

ラオ・フレンズ小児病院 今月の出来事“緊急版”

日本のコロナ禍が落ち着きを見せてきたと思っていたら、ラオスでは急激に市中感染が拡大しています。これまでルアンパバーンでは感染者が発生しても、そこからの感染拡大を抑えてきたのですが、この数日は市中感染が市内にも広がり、10月11日から厳しいロックダウンに入りました。10月13日現在の国内感染者数は29,393人。日本と比較すると少ない実数ではありますが、医療態勢が脆弱なラオスでは危機感を感じます。

ロックダウン中、病院スタッフは許可書を持参し、市内警察による“通せんぼ”の検問で見せながらの出勤です。

緊張が高まる町の状況、院内の様子を緊急版としてお伝えしたいと思います。

ロックダウン当日は、まだ小売店もスーパーも開いていたのですが、翌日には営業停止の通告があり、対象でない店舗も軒並みお店を閉めていました。



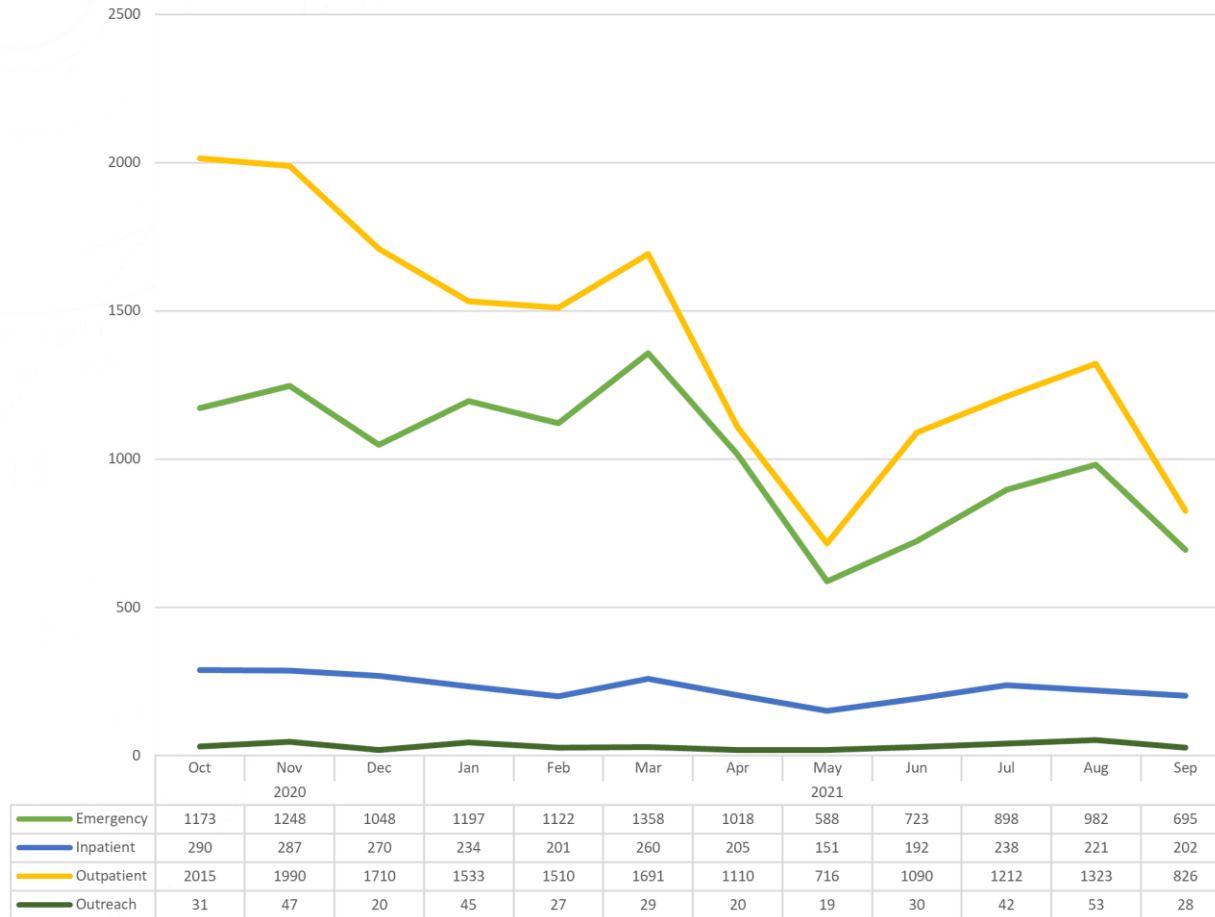
店舗の様子

まだ18時台だったのですが、ほとんどのお店が閉まっていて、真っ暗でした。

そんな中、開いているお店を見つけて人が集まっていました。とは言え、店内に入ることはできず、入り口にはバリケードがされていて外から「〇〇ください!」と言って購入しています。



外来来院者数



患者数推移

前回の出来事でお知らせしたのは、ちょうど4月のロックダウン直後のことでした。グラフでもご覧になれるように、来院患者数（黄線）が急激に下がっています。ロックダウンによる抑え込みは効果を発揮し、2週間で解除。来院患者数が増加に転じた矢先に、8月からの市中感染拡大で徐々に感染者が多い地域（レッドゾーン）が増え、それにより患者数も減少しています。

感染者増加に伴い、県知事から通達が発表され、ついに、10月7日からこれまでより厳しいロックダウンが開始され、来院患者数も激減。本日（10月13日）の来院患者数は15人でした。



ワクチン接種状況

ラオスでもワクチン接種が進められています。今年1月から医療従事者等の優先接種が始まり、18歳以上を対象に、シノファーム、アストラゼネカ、ジョンソン・エンド・ジョンソン、ファイザーのワクチンが提供されています。

10月14日現在、2回目の接種が完了した割合は、国内で50%に届いていないようです。農村部まですべて行き渡るにはとても時間がかかりそうです。

ラオ・フレンズ小児病院(LFHC)では、入院患者さんのご家族にも安心して入院していただけるよう、スタッフが希望者を会場へ誘導し、接種が行われました。



接種完了になると、接種会場で証明書をラミネートしてくれます。費用は、10,000キップ(約100円)です。

接種会場は広々ガラガラ





農村部での警戒

9月中旬から感染者増加傾向があり、保健局より訪問看護の活動は一時停止の通達がありました。そのため、緊急の患者さんのみ、保健局からの許可書を持参して出ていましたが、多くの村の入り口では、写真のようなゲートが作られ門番さんが常駐していました。

保健局からの許可書を見せて説明をしますが、なかなか了解を得られない村もあり、四苦八苦でした。

いつもは1泊して回る地域も、今は許可されないのので、早朝出発し、帰院は夜遅くなる日がありました。

緩和ケアの患者さんや服薬を切らせてはいけない患者さんなど、すぐに身動き取れないことがとてもストレスです。



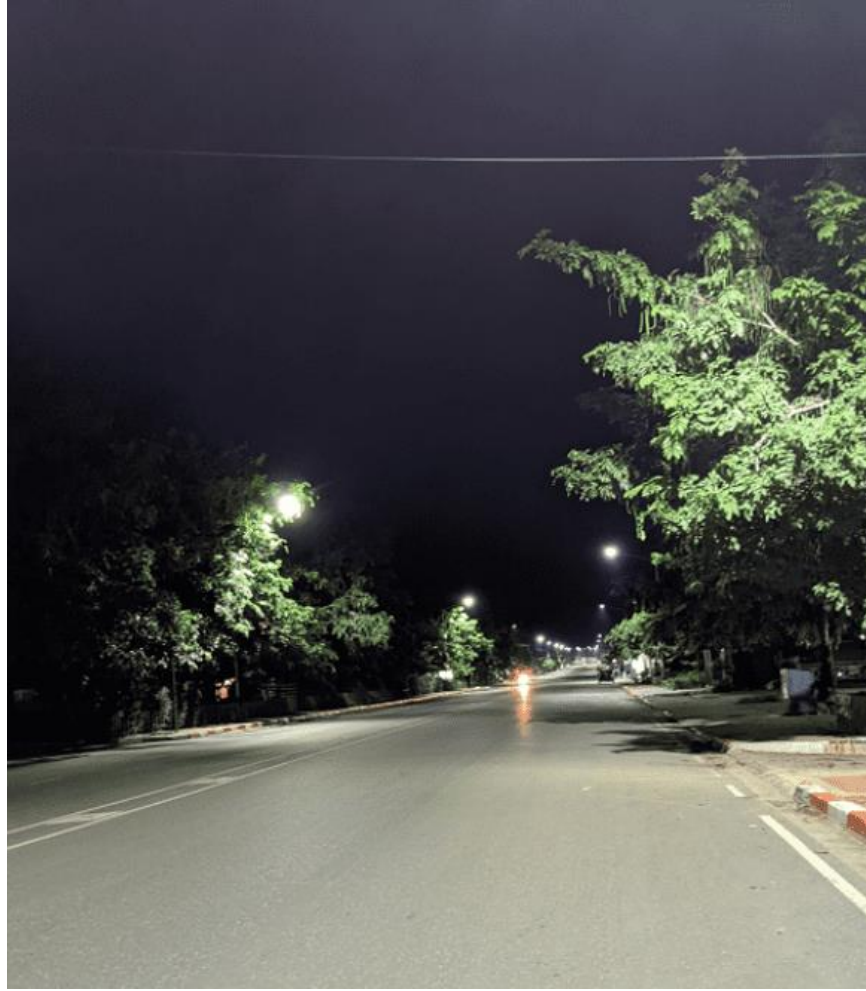
ロックダウンは自分たちで

10月7日から始まったルアンパバーン市内のロックダウンでは、各所にいろんな通せんぼの方法が見られます。各村で自ら作りますので、様々な形状になるのが興味深いです。

トタンや木材でがっちりとやっているところもあれば、プラスチックの紐にペットボトルや袋をぶら下げて目印にするところ、きちんとしたゲートのようなものもあります。

また大きな通りでは、警官がテントを張って検問をして、厳しく取り締まっていますので、いつもの道が通れなくなっていることが多く、ぐるぐる遠回りになってしまうことも。





19時で、どここの道も人がいません。



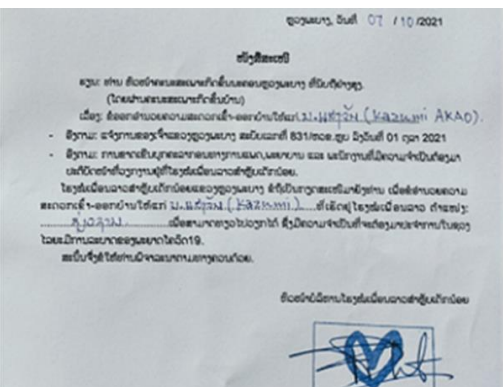
朝のうちに

今回のロックダウンに際して、食材購入など必需品の購入のために1日1回は外出してよいことになっており、朝の市場は賑わっています。

市場の入り口では、体温測定と手指消毒が全ての人に実施されていました。

検問も朝の方が多少緩やかだったような気がします。

レストラン、カフェ、フードデリバリーも営業ストップの通達が出ているので、朝の市場を逃すと食材の調達が難しいです。私も今朝は6時に市場へ行ってトマトと卵を大量に購入してきました。



病院では

病院スタッフは通行許可書(写真左下)を持って通勤します。

院内は、30℃を超える気温の中、予防衣を付けて頑張っています。(写真左上、右下) 来院患者さんが激減しても入院が必要な患者さんは引き続きいます。予防衣を脱ぐと中に汗がたまっています。ラオスで入手できるものは通気性はかなり悪く、サウナ状態で体力が奪われますね。毎日大量に消費される予防衣が不足していることに気が付き、急遽オーダーしたものが、廊下に積まれています。(写真右上)



忘れていません、 Compassionate care



毎日汗だくになってへとへとです。

でも、忘れていません、“Compassionate care”。フレンズが掲げる心のこもった質の高いケアは、どんな時もスタッフの心の中に存在しています。

忙しい業務の合間にも、子どもたちの笑顔を大切にしています。

みんな大変だけど、これを乗り切ったらまた一つ大きな成長を遂げられると信じています。

頑張ろう！

もう一つ 温かいお話

入院患者さんの中に、整形外科用の装具を2か月も待っている女の子がいます。骨の中に炎症を起こして弱っているために、装具を使って外部から固定する必要があります。しかし、この装具はとても高価なもので、病院でも購入ができずにおりました。そのことを古くからの友人(小児外科医師)に相談をしたところ、ある整形外科医師をご紹介下さり、装具を寄贈してくださいました。コロナ禍で輸送が滞っていることと、医療品であることで日本からの発送ができずにいたのですが、緊急手配としてDHLを通して発送し、本日病院に到着!一見建築資材のようですが、これで、手術ができそうです!うれしいです。



今回は、ラオス国内、特にルアンパバーン市内のコロナ感染急拡大により、日ごろお世話になっている皆様へ現状をお伝えしたく、急遽ですが、“出来事”をお送りいたしました。ここまで頑張っ
て抑え込んできたのですが、「とうとう来てしまったか」という気
持ちです。

とても大変な時期を迎えていますが、ラオスの村で見かける“支
えあう”姿がラオスの良いところ。その良いところを発揮してみん
なで乗り越えたいと思います。

日本のコロナ感染は大分落ち着いてきたようですね。ラオスも一
日でも早くそんな日が来るように、前進あるのみです。

ラオ・フレンズ小児病院 看護師 赤尾和美



スー!スー! (ラオス語で“頑張れ!”という意味)